

言葉の魔術師と呼ばれて

樋口 恵子

1. 本来このようなタイトルでお話する力量を持っていませんので、汗顔の至りです。大熊由紀子先生こそ「乗せ上手の魔術師」でしょう。えにしの会に集まるのはみんな「乗せられた善男善女」です。
2. それにしても、医療・福祉・地域づくりを問わず、コミュニケーションの大切さ、ことばによる伝達方法については多少考えてきました。重要な課題と思います。せつかくの機会ですので、断片的にですが意見を述べさせていただきます。

3. 「聞く」ことから始まるすべてのコミュニケーション

聞き上手は、少し大げさに言えば民主主義の鉄則だと思います。人間関係の出発点である「注目＝注耳というべきか」「関心を払う」ことの第一歩は、聞くことです。

聞くことは話し上手になるコツ

小学校時代のお話の時間、ラジオの相撲中継、落語の間の取り方、
聞くことで話し方を学ぶ = 真似ぶ

4. 言葉の力、恐ろしさ

自信を持ってこの世の中に生きる — すべての子ども、高齢者にも持つてほしい。ケアする人に望ましいことば力 = ロマメ、ほめ上手

・私を生かしたことば

- 1) 30歳で最初の夫に死なれ、自分も死にたいと思っていたとき
(発想の転換)
- 2) 朝日の入社試験に落ちて、世捨て人のつもりで結婚に逃げ込んだとき
(発想の転換)
- 3) サマースクールでやたらにむずかしい先生にふてくされていたとき
(単純明快な讃辞)
- 4) 容貌コンプレックスで悩んでいたとき
(実にいい人がほめてくれた。幸運です)

・自分も他者を生かせるだろうか

せめて心をこめること

井上ひさし氏の遺言

「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、
おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことは
あくまでゆかいに」

せめて表情。仏教の願施

5. 時代とともに生きることば、変わることば

1) 今の高齢者 ～「ガリバー旅行記」の不死人間。

ことばが数十年サイクルで変わっていく

2) しかし「お年寄り」という固定観念でコミュニケーションはできない

時代を切り取ることば、新しい事実を与えることば 「介護」はその1つ
変化の風をとらえ、笑ってゆかいに生きる

わたしに関連したことば（多くは不特定他者から聞いたもの）

3) 1981年ごろ「粗大ごみ」(産業廃棄物)

1989年 「濡れ落ち葉」流行語新語大賞表現賞

出前迅速 屋号は福祉

ローバは一日にして成らず

じじばばも二階建てなり長寿国

2006年 人生100年すべての人に居場所と出番

笑いと受容と妥協から改革は生まれる

歩いて買物、近くに仲間、少し稼げる仕事があって、

これぞほんとの介護予防

嫁は絶滅危惧種

大台少子化世代／大介護時代

同時多発介護

6. ICT時代の「講演という名のコミュニケーション」

自由民権・婦人選挙権運動、ICTのない時代に講演（演説会）で人は動かされた。

今も講演・講座はさかんである

おそらく ー 同一空間のナマな共有、息づかいの共有、

出かけてくるという行動の共有

演者と聴衆だけでない、聴衆同士の多様なコミュニケーションが

影響を増幅するのではないか

個別、集団ともどもナマなコミュニケーションを大切にしてほしい